

平成 24 年度及び平成 25 年度に実施した 大学機関別選択評価に関する検証結果報告書

平成 27 年 3 月

独立行政法人 大学評価・学位授与機構

はじめに

大学評価・学位授与機構（以下「機構」という。）では、選択評価を開放的で進化する評価とするために、評価の経験や評価を受けた機関等の意見を踏まえつつ、常に評価システムの改善を図ることとしている。

このため、選択評価において、毎年度、評価の終了後、評価対象校及び機構側の評価担当者（以下「評価担当者」という。）へのアンケート調査を実施し、その結果等をもとに評価の有効性、適切性について検証を行うことにより、評価内容・方法等の改善・充実すべき点を把握し、次年度以降に実施する評価に反映させている。（この検証結果は年度ごとに検証結果報告書としてまとめている。ただし、平成 24 年度については、選択評価を受けた大学が 1 校であったため、匿名性を考慮し検証結果報告書を作成しなかった。）

平成 25 年度実施の選択評価においても、引き続きアンケート調査を実施して検証を行うこととし、より透明性の高い評価とするため、報告書を作成しなかった平成 24 年度実施分のアンケート調査結果を合算して、ここに平成 24 年度及び平成 25 年度実施の選択評価（4 大学）に関する調査及び検証結果を取りまとめた。

目 次

はじめに

I	機構が実施した大学機関別選択評価の概要	1
II	平成 24 年度及び平成 25 年度実施の選択評価に関する検証	
1.	検証の実施方法	5
2.	項目別の検証	
(1)	選択評価を受けた理由について	7
(2)	選択評価事項及び観点について	8
(3)	説明会・研修会について	9
(4)	自己評価書について	10
(5)	書面調査・訪問調査について	11
(6)	評価結果（評価報告書）について	13
(7)	評価の効果・影響について	14
(8)	評価の作業量等について	15
(9)	設けることが望ましい選択評価事項について	16
(10)	評価についての全般的な意見・感想について	17
3.	対象校の取組及びアンケートで意見	
(1)	選択評価結果を受けた対象校の改善取組例	18
(2)	アンケートで寄せられた意見	18

参考資料

1	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 （選択式回答）【対象校】	21
2	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 （選択式回答）【評価担当者】	24
3	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果	

	(自由記述)【対象校】	26
4	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 (自由記述)【評価担当者】	29
5	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート【対象校】 (大学用)	32
6	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート【評価担当者】 (大学用)	48

I 機構が実施した大学機関別選択評価の概要

平成 24 年度及び平成 25 年度に実施した選択評価の検証をまとめるに当たって、まず機構が実施した大学の選択評価の概要について触れておく。

機構の実施する認証評価は、大学の正規課程における教育活動を中心として大学の教育研究活動等の総合的な状況を評価するものであるが、大学にとって研究活動は、教育活動とともに主要な活動の一つであり、さらに大学は、社会の一員として、地域社会、産業界と連携・交流を図るなど、教育、研究の両面にわたって知的資産を社会に還元することが求められており、実際にそのような活動が広く行われている。

機構は、大学評価基準とは異なる側面から大学の活動を評価するために、「研究活動の状況」（選択評価事項 A）、「地域貢献活動の状況」（選択評価事項 B）及び「教育の国際化の状況」（選択評価事項 C）を設定し、大学の希望に基づいて、これらの事項に関わる活動等について評価を行っている。

選択評価事項は、まず、平成 17 年度に選択的評価基準として「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」の評価を開始し、評価体制が整備されるのを待って、翌平成 18 年度より「研究活動の状況」の評価を開始し、これら二つの事項を選択的評価事項として定めた。機構では、選択的評価事項に関する評価を発展させ、平成 23 年 3 月に大学機関別選択評価に改め、「研究活動の状況」、「地域貢献活動の状況」の二つの事項を選択評価事項とし、平成 24 年度から評価を開始するとともに、平成 25 年度からは「教育の国際化の状況」を新たに追加し評価を実施している。

1. 目的

選択評価は、各大学の個性の伸長に資するよう、以下のことを目的として行った。

- (1) 評価結果を各大学にフィードバックすることにより、各大学の教育研究活動等の改善に役立てること。
- (2) 大学の教育研究活動等の状況を明らかにし、それを社会に示すことにより、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくこと。

2. 実施体制

評価を実施するに当たっては、国・公・私立大学の関係者及び社会、経済、文化等各方面の有識者からなる大学機関別認証評価委員会（以下「評価委員会」という。）を設置し、その下に、具体的な評価を実施するため、対象大学（以下「対象校」という。）の状況に応じた評価部会を編成し、評価を実施した。

評価部会には、大学の教育分野やその状況が多様であること等を勘案し、対象校の学部等の状況に応じた各分野の専門家及び有識者を評価担当者として配置した。

3. 方法・プロセス

方法及びプロセスの概要は、下記のとおりである。

(1) 大学における自己評価

大学は、『自己評価実施要項』に従って自己評価を実施し、自己評価書を作成した。

(2) 機構における評価

機構における評価は、書面調査及び訪問調査により実施した。

- ① 書面調査は、『評価実施手引書』に基づき、対象校から提出された自己評価書（大学の自己評価で根拠として提出された資料・データを含む。）及び機構が独自に調査・収集した資料・データ等に基づいて、対象校の状況を調査・分析した。
- ② 訪問調査は、『訪問調査実施要項』に基づき、書面調査では確認できない事項等を中心に調査を実施した。
- ③ 選択評価事項ごとに、自己評価の状況を踏まえ、その評価事項に関わる大学が有する目的の達成状況等について評価を実施した。
なお、選択評価事項は、いくつかの内容に分けて規定されており、これらを踏まえ基本的な観点が設定されている。目的の達成状況等については、その個々の内容ごとに行うのではなく、基本的な観点の分析状況を総合した上で、選択評価事項ごとに行った。
- ④ 選択評価事項ごとに、取組が優れていると判断される場合や、改善の必要が認められる場合等には、その旨の指摘も行った。
- ⑤ 評価結果については、「目的の達成状況が非常に優れている」、「目的の達成状況が良好である」、「目的の達成状況がおおむね良好である」、「目的の達成状況が不十分である」の4段階で記述し、公表した。

4. スケジュール

<平成24年度実施>

- (1) 平成23年6月に、国・公・私立大学の関係者に対し、評価の仕組み、方法等について説明会を実施するとともに、自己評価担当者等に対し、自己評価書の記載等について説明を行うなどの研修を実施した。
- (2) 平成23年10月に申請を受け付け、最終的に以下の大学の評価を実施することとなった。
 - 公立大学（1大学）
産業技術大学院大学（B）

(3) 平成 24 年 6 月に、評価担当者が共通理解の下で公正、適切かつ円滑にその職務が遂行できるよう、評価の目的、内容及び方法等について評価担当者に対する研修を実施した。

(4) 平成 24 年 6 月末に、対象校から自己評価書の提出を受けた。

(5) 対象校からの自己評価書提出後の評価作業スケジュールは次のとおりであった。

24 年 7 月	書面調査の実施
8 月	評価部会の開催（書面調査による分析結果の整理、訪問調査での確認事項及び訪問調査での役割分担の決定）
11 月	訪問調査の実施（書面調査では確認できなかった事項等を中心に対象校の状況を調査）
12 月	評価部会の開催（評価結果（原案）の作成）

(6) これらの調査結果を踏まえ、平成 25 年 1 月に評価委員会で評価結果（案）を決定した。

(7) 評価結果（案）に対する意見の申立ての機会を設け、平成 25 年 3 月の評価委員会での審議を経て最終的な評価結果を確定した。

<平成 25 年度実施>

(1) 平成 24 年 6 月に、国・公・私立大学の関係者に対し、評価の仕組み、方法等について説明会を実施するとともに、自己評価担当者等に対し、自己評価書の記載等について説明を行うなどの研修を実施した。

(2) 平成 24 年 9 月に申請を受け付け、最終的に以下の大学の評価を実施することとなった。

○ 国立大学（1 大学）

秋田大学（B）

○ 公立大学（2 大学）

沖縄県立看護大学（A・B）、沖縄県立芸術大学（A・B）

(3) 平成 25 年 6 月に、評価担当者が共通理解の下で公正、適切かつ円滑にその職務が遂行できるよう、評価の目的、内容及び方法等について評価担当者に対する研修

を実施した。

(4) 平成 25 年 6 月末に、対象校から自己評価書の提出を受けた。

(5) 対象校からの自己評価書提出後の評価作業スケジュールは、次のとおりであった。

25 年 7 月	書面調査の実施
8 月	評価部会の開催（書面調査による分析結果の整理、訪問調査での確認事項及び訪問調査での役割分担の決定）
10～12 月	訪問調査の実施（書面調査では確認できなかった事項等を中心に対象校の状況を調査）
12 月	評価部会の開催（評価結果（原案）の作成）

(6) これらの調査結果を踏まえ、平成 26 年 1 月に評価委員会で評価結果（案）を決定した。

(7) 評価結果（案）に対する意見の申立ての機会を設け、平成 26 年 3 月の評価委員会で審議を経て最終的な評価結果を確定した。

5. 評価結果

平成 24 年度及び平成 25 年度に選択評価を実施した大学の評価結果は、次のとおりとなった。

- 選択評価事項 A
 - ・ 目的の達成状況が良好である：1 大学
 - ・ 目的の達成状況がおおむね良好である：1 大学
- 選択評価事項 B
 - ・ 目的の達成状況が極めて良好である：1 大学
 - ・ 目的の達成状況が良好である：3 大学

機構はこの評価結果を平成 24 年度実施分は平成 25 年 3 月 27 日付で、平成 25 年度実施分は平成 26 年 3 月 26 日付で、各対象機関及び設置者へ通知するとともに、機構のウェブサイトにより公表し、かつ文部科学大臣へ報告した。

※ 選択評価事項は機構ウェブサイトを参照のこと。

http://www.niad.ac.jp/n_hyouka/daigaku/index.html

Ⅱ 平成 24 年度及び平成 25 年度実施の選択評価に関する検証

1. 検証の実施方法

(1) アンケート調査の実施

平成 24 年度及び平成 25 年度実施の選択評価の対象校及び評価担当者に対し、記名選択式回答（5 段階・2 段階）及び自由記述からなるアンケート調査を実施した。

[対象校]

1. 選択評価事項及び観点について
2. 評価の方法及び内容について
 - (1) 自己評価について
 - (2) 訪問調査等について
 - (3) 意見の申立てについて
3. 評価の作業量、スケジュール等について
4. 説明会・研修会等について
5. 評価結果（評価報告書）について
6. 評価を受けたことによる効果・影響について
 - (1) 自己評価を行ったことによる効果・影響について
 - (2) 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について
7. 評価結果の活用について
8. その他

[評価担当者]

1. 選択評価事項及び観点について
2. 評価の方法及び内容・結果について
 - (1) 自己評価書について
 - (2) 書面調査について
 - (3) 訪問調査について
 - (4) 評価結果について
3. 研修について
4. 評価の作業量、スケジュール等について
5. 評価全般について

(2) アンケート調査結果等の検証

対象校及び評価担当者に対するアンケート調査内容から、主要な項目を整理・分類し、項目別に分析を行った。その上で、評価実施過程において機構が把握した問題点

等も踏まえ、評価の有効性、適切性を検証した。

分析項目は以下のとおりである。

- (1) 選択評価を受けた理由について
- (2) 選択評価事項及び観点について
- (3) 説明会・研修会について
- (4) 自己評価書について
- (5) 書面調査・訪問調査について
- (6) 評価結果（評価報告書）について
- (7) 評価の効果・影響について
- (8) 評価の作業量等について
- (9) 設けることが望ましい選択評価事項について
- (10) 評価についての全般的な意見・感想について

※アンケート調査に係る補足事項

1. アンケート用紙配付日程

	平成 24 年度
対象校	平成 25 年 3 月 27 日
評価担当者	平成 24 年 12 月 25 日

	平成 25 年度
対象校	平成 26 年 3 月 26 日
評価担当者	平成 25 年 12 月 25 日

2. アンケートの回収状況

平成 24 年度

	回答数	回収率
対象校	1 校中 1 校	100%
評価担当者	4 名中 2 名	50%

平成 25 年度

	回答数	回収率
対象校	3 校中 3 校	100%
評価担当者	11 名中 7 名	64%

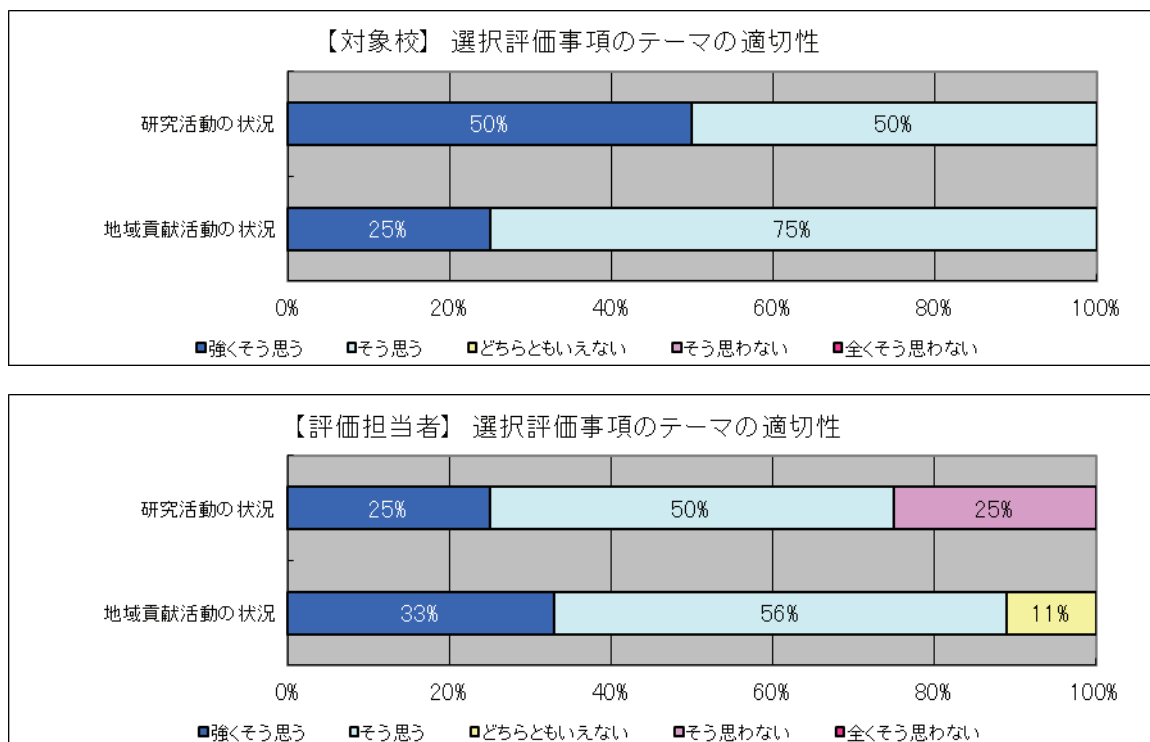
2. 項目別の検証

(1) 選択評価を受けた理由について

今回、対象校が選択評価を受けた理由について、選択評価事項が大学の理念や目標に合致しており、大学の取組の更なる向上につなげることを目的として受けた大学や、大学の取組に対する客観的な評価から、課題と今後の方向性を明確にすることを目的として受けた大学が見られた。

(2) 選択評価事項及び観点について

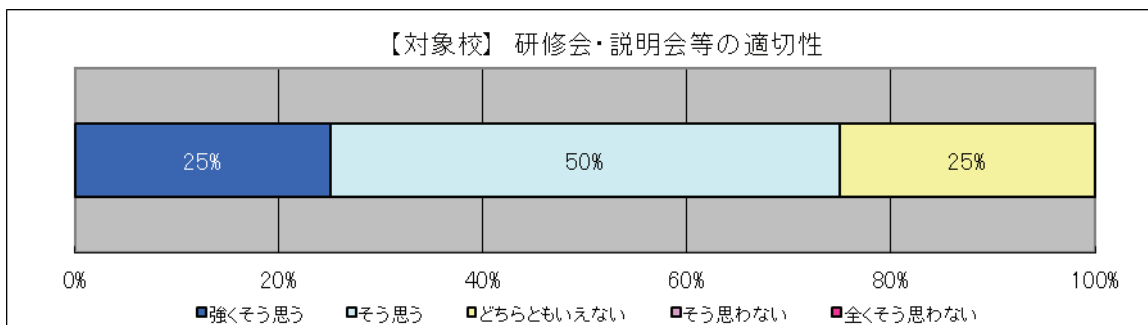
設定された選択評価事項のテーマ「研究活動の状況」「地域貢献活動の状況」は適切なものであると考えられる。また、対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法はそれぞれおおむね適切であると考えられる。



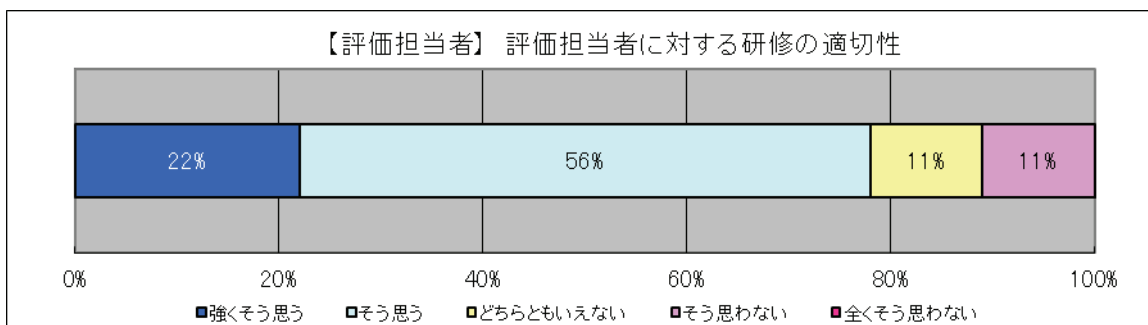
※ 回答率については、小数点以下四捨五入のため合計が100%にならないものもある。また、未回答は除いている。

(3) 説明会・研修会について

選択評価に関する説明会・自己評価担当者等に対する研修会はおおむね適切であると
考えられる。

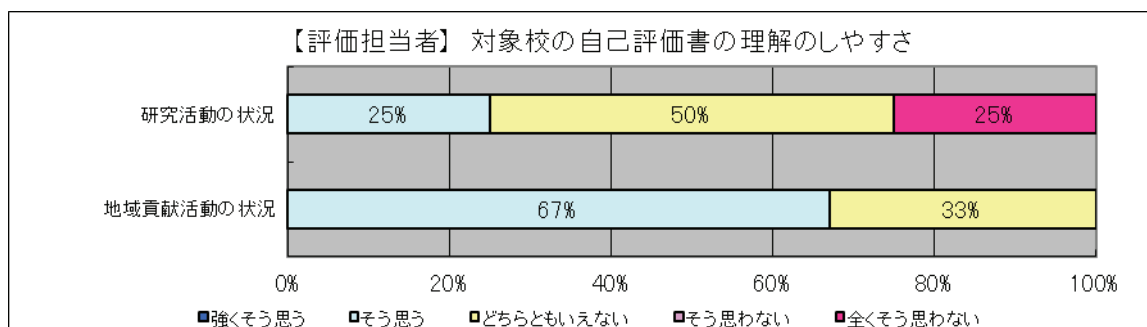


評価担当者に対する研修はおおむね適切であると考えられる。

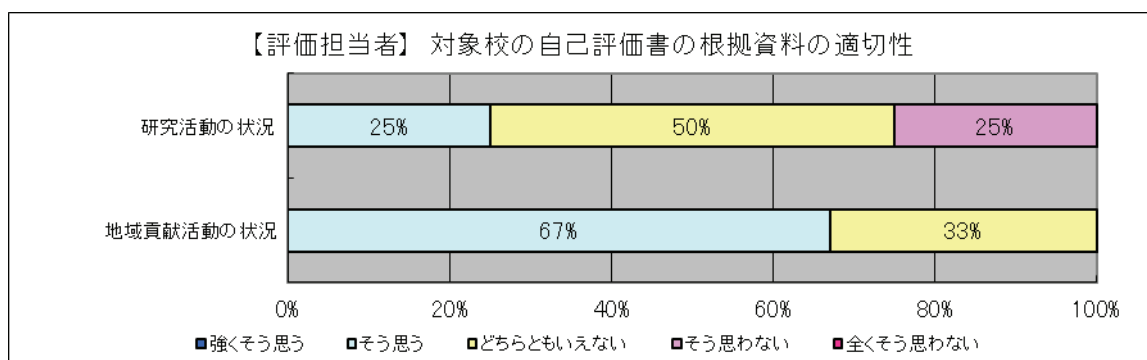


(4) 自己評価書について

自己評価書の理解しやすさについて、「地域貢献活動の状況」についてはおおむね肯定的に評価されているものの、「研究活動の状況」については一部の評価担当者から否定的な回答も寄せられているため、引き続き、説明会等で選択評価事項及び観点への対象校の理解を深める工夫が必要である。

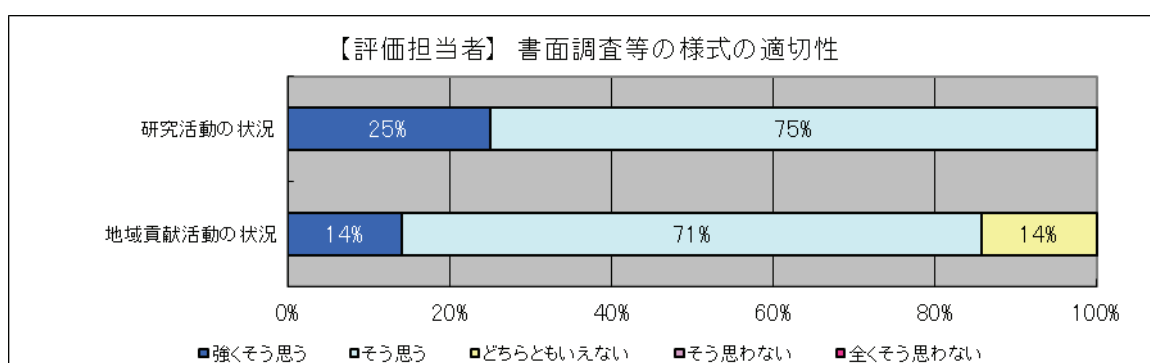
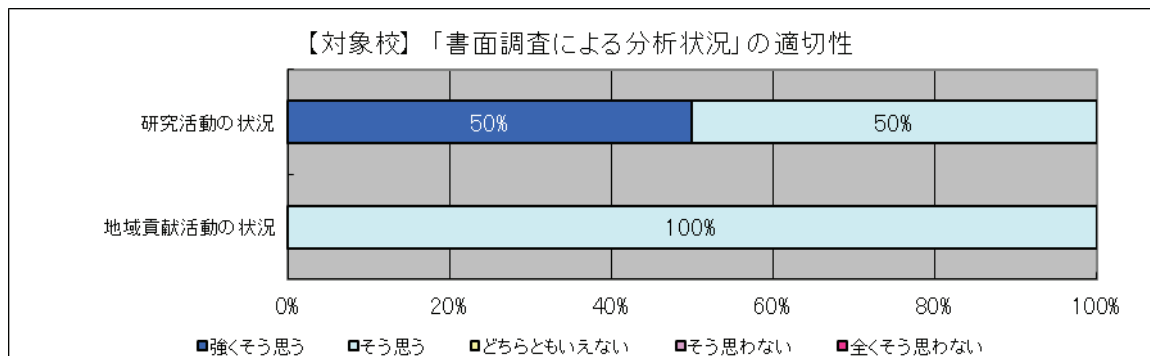


自己評価書の添付資料について、「地域貢献活動の状況」についてはおおむね適切な根拠資料が添付されていたと考えられるものの、「研究活動の状況」については一部の評価担当者から否定的な回答も寄せられている。引き続き、説明会等で添付資料についての対象校の理解を深める工夫が必要である。

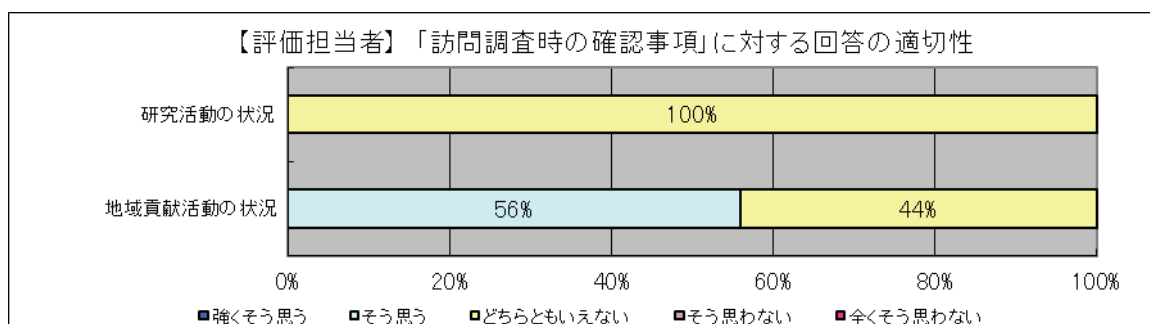
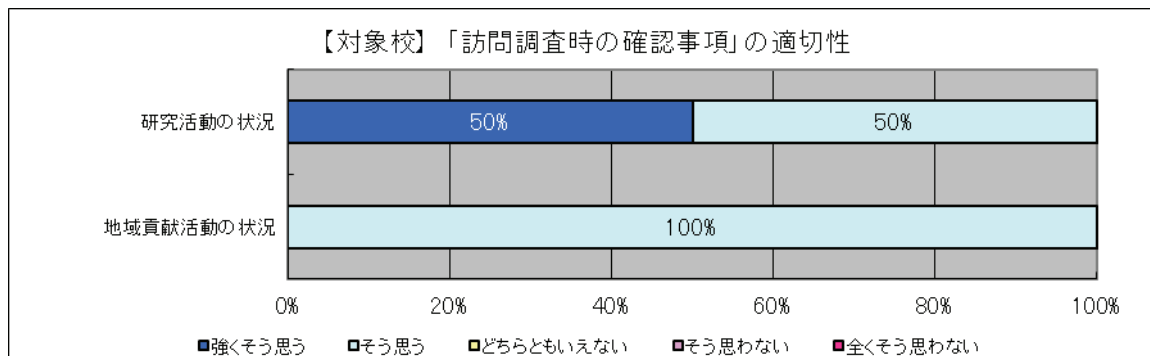


(5) 書面調査・訪問調査について

「書面調査による分析状況」の内容や書面調査票等の様式は適切であると考えられる。

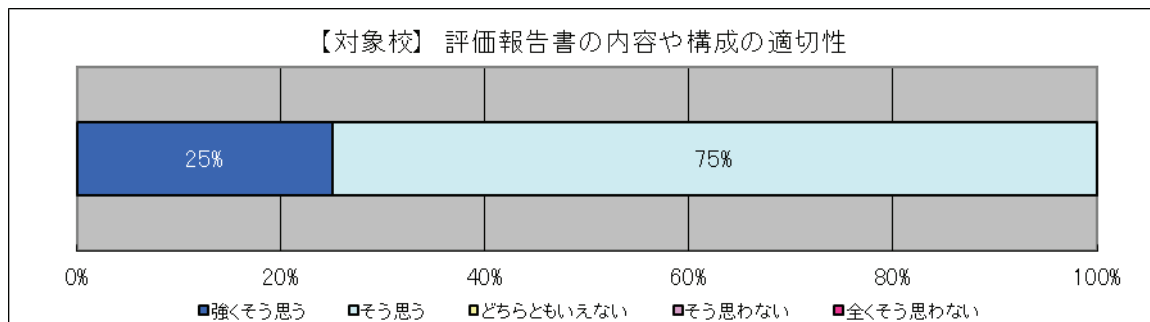


「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であると考えられるものの、それに対する回答については肯定的な回答が必ずしも多いとはいえないため、適切な回答を提出するよう、対象校に理解を促していく必要がある。

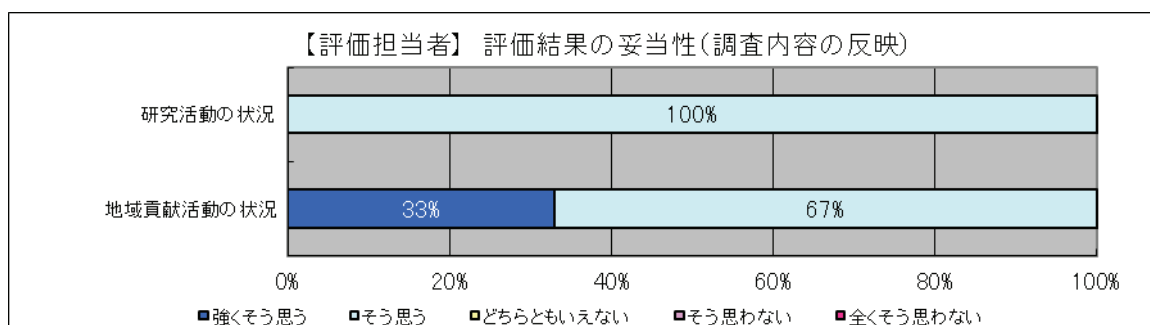


(6) 評価結果（評価報告書）について

評価報告書の内容や構成は適切であると考えられる。

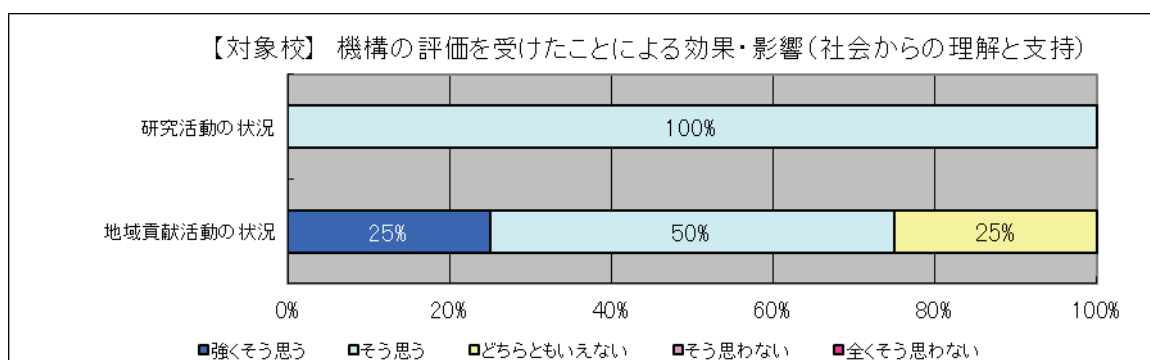
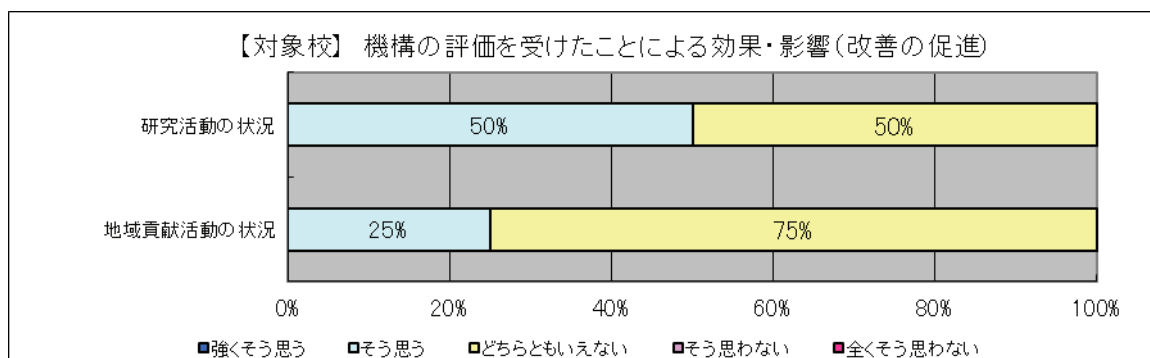


評価結果の妥当性について、評価報告書の内容は、評価担当者の意見が十分に反映されており、適切であると考えられる。



(7) 評価の効果・影響について

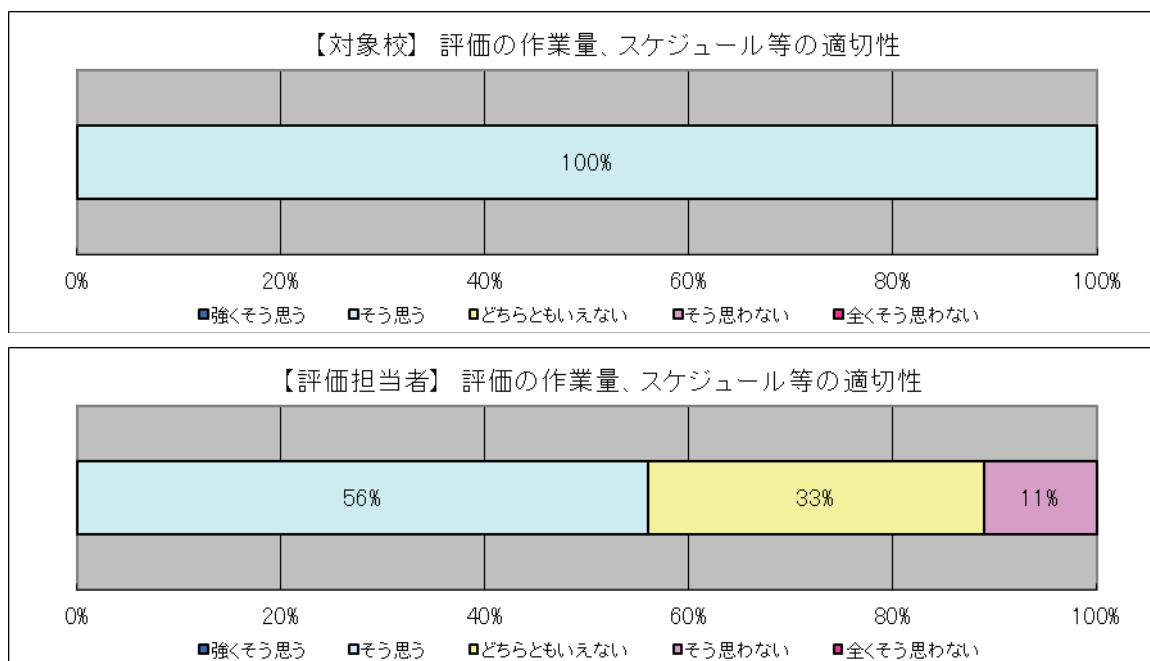
対象校が評価を受けたことによる効果・影響について、「社会からの理解と支持」におおむね有効であったと考えられるものの、「改善の促進」については肯定的な回答が必ずしも多いとはいえないため、評価によって対象校の自主的な改善につながるよう、工夫を行っていく必要がある。



自己評価の実施及び機構の評価結果を踏まえた改善・向上への取組は、各対象校で着実に行われている。(具体的な改善事例は「3 (1) 認証評価結果を受けた対象校の改善取組例」に挙げる。)

(8) 評価の作業量等について

総じて、評価の作業量、スケジュール等はおおむね適切であると考えられるが、一部否定的な回答も寄せられており、改善の余地がある。



(9) 設けることが望ましい選択評価事項について

現在の選択評価事項のほかに、新たに設けることが望ましい評価事項があったかについて、評価担当者から主に次のような意見・感想があった。

・ 評価担当者からの意見・感想について

これ以上選択評価事項の範囲を広げるべきではないとの意見が寄せられており、今後は、選択評価事項を増やすのではなく、選択評価を受ける大学を増やす方向を考えることが必要だとする意見も寄せられた。

(10) 評価についての全般的な意見・感想について

(1)～(9)に挙げたもののほか、評価全般について、評価担当者から主に次のような意見・感想があった。

・評価担当者からの意見・感想について

選択評価に携わり、勉強になった、参考になった、得難い機会であった等の感想が寄せられている。また、研究評価については、大学の研究分野を考慮し、一律な観点を適用することは困難であるといった意見も寄せられている。

3. 対象校の取組及びアンケートで寄せられた意見

(1) 選択評価結果を受けた対象校の改善取組例（代表的なものを抽出）

- 教員への研究費配分が職位別一律であったため、新たな配分方法を考える機会・場をつくる。

(2) アンケートで寄せられた意見（代表的なものを抽出）

【意見】

(対象校)

- 大学の形態や規模、地域特性などを加味した地域のニーズと大学のシーズとのマッチングに関する事項や観点も必要かと思う。
- 「研究活動の状況」についての評価を受けたことにより、教員の教育活動に関する評価が継続的に行われていくための端緒になることを期待している。

(評価担当者)

- 地域貢献については、大学が何をしたかだけでなく、地域住民、企業が主体的にどう関わったかとの設問が不可欠である。
- 自己評価書の記述方法がP D C Aに沿っていない。

参 考 资 料

参考資料 目次

1	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 （選択式回答）【対象校】	21
2	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 （選択式回答）【評価担当者】	24
3	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 （自由記述）【対象校】	26
4	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 （自由記述）【評価担当者】	29
5	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート 【対象校】（大学用）	32
6	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート 【評価担当者】（大学用）	48

※ なお、アンケートの自由記述については、原則、原文をそのまま掲載した。（ただし、具体の大学や個人等が明らかに特定されるものについては、特定できないような表現に改めた上で掲載した。）

選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式回答)【対象校】
【大学】

機関-	① 今回受けた選択評価事項	A	2
		B	3

【2:あった 1:なかった】

機関-	③ 現在の選択評価事項A、Bの他に、設けることが望ましい選択評価事項があった	2	1	計	平均	未回答
		0	3	3	1	0
		0%	100%	100%		

1. 選択評価事項及び観点について

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
機関1-	① 選択評価事項を設けたことは適切であった	0	3	0	0	0	3	4	0	
		0%	100%	0%	0%	0%	100%			
機関1-	② 「研究活動の状況」や「地域貢献活動の状況」を選択評価事項のテーマとして設定したことは適切であった	A	1	1	0	0	0	2	4.5	0
		B	1	2	0	0	0	3	4.33	0
		50%	50%	0%	0%	0%	100%			
		33%	67%	0%	0%	0%	100%			
機関1-	③ 対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった	A	0	2	0	0	0	2	4	0
		B	0	3	0	0	0	3	4	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%			
		0%	100%	0%	0%	0%	100%			
機関1-	④ 評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するために適切であった	A	0	2	0	0	0	2	4	0
		B	0	3	0	0	0	3	4	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%			
		0%	100%	0%	0%	0%	100%			
機関1-	⑤ 評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった	A	0	2	0	0	0	2	4	0
		B	0	2	1	0	0	3	3.67	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%			
		0%	67%	33%	0%	0%	100%			

【2:ある 1:ない】

		2	1	計	平均	未回答	
機関1-	⑥ 自己評価しにくい評価事項又は観点があった	A	1	1	2	1.5	0
		B	0	3	3	1	0
		50%	50%	100%			
		0%	100%	100%			
機関1-	⑦ 現行のものに加え、追加すべき評価事項及び観点があった	A	0	2	2	1	0
		B	0	3	3	1	0
		0%	100%	100%			
		0%	100%	100%			

2. 評価の方法及び内容について

(1) 自己評価について

【2:迷った 1:迷っていない】

		2	1	計	平均	未回答	
機関2-(1)-	① 自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った	A	0	2	2	1	0
		B	1	2	3	1.33	0
		0%	100%	100%			
		33%	67%	100%			

(2) 訪問調査等について

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
機関2-(2)-	① 訪問調査の前に提示された、「書面調査による分析状況」の内容は適切であった	A	1	1	0	0	0	2	4.5	0
		B	0	3	0	0	0	3	4	0
		50%	50%	0%	0%	0%	100%			
		0%	100%	0%	0%	0%	100%			
機関2-(2)-	② 訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった	A	1	1	0	0	0	2	4.5	0
		B	0	3	0	0	0	3	4	0
		50%	50%	0%	0%	0%	100%			
		0%	100%	0%	0%	0%	100%			

(3)意見の申立てについて

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関2-(3)-	① 総じて、意見の申立ての実施方法等は適切であった	0	3	0	0	0	3	4	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		

3. 評価の作業量、スケジュール等について

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関3-	① 総じて、評価の作業量、スケジュール等は適切であった	0	3	0	0	0	3	4	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		

4. 説明会・研修会等について

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関4-	① 総じて、説明会・研修会等は適切であった	0	2	1	0	0	3	3.67	0
		0%	67%	33%	0%	0%	100%		

5. 評価結果(評価報告書)について

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
機関5-	① 評価報告書の内容は、対象校の教育研究活動等の改善に役立つものであった	A	0	2	0	0	0	2	4	0
		B	1	1	1	0	0	3	4	0
機関5-	② 評価報告書の内容は、対象校の教育研究活動等について社会の理解と支持を得られることを支援・促進するものであった	A	0	2	0	0	0	2	4	0
		B	1	1	1	0	0	3	4	0
機関5-	③ 評価報告書の内容は、対象校の目的に照らし適切なものであった	A	0	2	0	0	0	2	4	0
		B	1	1	1	0	0	3	4	0
機関5-	④ 評価報告書の内容は、対象校の実態に即したものであった	A	0	2	0	0	0	2	4	0
		B	2	1	0	0	0	3	4.67	0
機関5-	⑤ 評価報告書の内容は、対象校の規模等(資源・制度など)を考慮したものであった	A	0	2	0	0	0	2	4	0
		B	0	2	1	0	0	3	3.67	0
機関5-	⑥ 評価報告書の内容から、教育研究活動等に関して新たな視点が得られた	A	0	1	1	0	0	2	3.5	0
		B	0	1	2	0	0	3	3.33	0
機関5-	⑦ 評価報告書の構成及び内容は分かりやすいものであった	A	1	1	0	0	0	2	4.5	0
		B	0	3	0	0	0	3	4	0
機関5-	⑧ 評価結果において、達成状況等を4段階の判断で示すという方法は適切であった	0	2	1	0	0	3	3.67	0	
機関5-	⑨ 総じて、機構による評価報告書の内容や構成は適切であった	0	3	0	0	0	3	4	0	

6. 評価を受けたことによる効果・影響について

(1) 自己評価を行ったことによる効果・影響について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない】

機関6-(1)-	① 対象校の教育研究活動等の改善を促進した	A	5	4	3	2	1	計	平均	未回答
			0	2	0	0	0	0	2	4
			0%	100%	0%	0%	0%	100%		
		B	0	1	2	0	0	3	3.33	0
			0%	33%	67%	0%	0%	100%		

(2) 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない】

機関6-(2)-	① 対象校の教育研究活動等の改善を促進する	A	5	4	3	2	1	計	平均	未回答
			0	1	1	0	0	2	3.5	0
			0%	50%	50%	0%	0%	100%		
		B	0	0	3	0	0	3	3	0
			0%	0%	100%	0%	0%	100%		
機関6-(2)-	② 対象校の学生や社会からの理解と支持が得られる	A	5	4	3	2	1	計	平均	未回答
			0	2	0	0	0	2	4	0
			0%	100%	0%	0%	0%	100%		
		B	1	1	1	0	0	3	4	0
			33%	33%	33%	0%	0%	100%		

7. 評価結果の活用について

(1) 今回の評価(機構の評価結果だけでなく、対象校における自己評価及びその後の評価の過程で得られた知見を含む。)を契機として、課題として認識し、何らかの変更・改善を予定している事項(または実施済みの事項)について、

(省略)

(2) 対象校では、今後、次のような事柄に評価結果を用いる予定がありますか。(複数回答可)

- 1 対象校の広報誌に評価結果を掲載する。
- 2 対象校のウェブサイトで評価結果を公表する。
- 3 資金獲得のための申請書に記載する。
- 4 学生募集の際に用いる。
- 5 共同研究等の相手先企業を募集するパンフレット等に用いる。
- 6 その他(具体的に)

1	2	3	4	5
1	2	0	0	0

選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式回答)【評価担当者】

【大学】

評1-	① 今回、評価を担当された選択評価事項について	A	4
		B	7

【2:あった 1:なかった】

評1-	② 現在の選択評価事項A、Bの他に、設けることが望ましい選択評価事項があった	2	1	計	平均	未回答
		1	6	7	1.14	0
		14%	86%	100%		

1. 選択評価事項及び観点について

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

評1-	① 選択評価事項を設けたことは適切であった	5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
		1	5	0	1	0	7	3.86	0	
		14%	71%	0%	14%	0%	100%			
評1-	② 「研究活動の状況」や「地域貢献活動の状況」を選択評価事項のテーマとして設定したことは適切であった	A	1	2	0	1	0	4	3.75	0
		B	2	5	0	0	0	7	4.29	0
		25%	50%	0%	25%	0%	100%			
		29%	71%	0%	0%	0%	100%			
評1-	③ 対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった	A	1	2	0	1	0	4	3.75	0
		B	1	5	0	0	0	6	4.17	1
		25%	50%	0%	25%	0%	100%			
		17%	83%	0%	0%	0%	100%			
評1-	④ 評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するために適切であった	A	0	3	0	1	0	4	3.5	0
		B	0	6	1	0	0	7	3.86	0
		0%	75%	0%	25%	0%	100%			
		0%	86%	14%	0%	0%	100%			
評1-	⑤ 評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった	A	0	2	1	1	0	4	3.25	0
		B	1	5	1	0	0	7	4	0
		0%	50%	25%	25%	0%	100%			
		14%	71%	14%	0%	0%	100%			

【2:ある 1:ない】

評1-	⑥ 評価しにくい評価事項又は観点が合った	2	1	計	平均	未回答	
		1	3	4	1.25	0	
		25%	75%	100%			
評1-	⑦ 現行のものに加え、追加すべき評価事項及び観点が合った	A	0	7	7	1	0
		B	0	7	7	1	0
		0%	100%	100%			
		0	4	4	1	0	
		0%	100%	100%			
		1	6	7	1.14	0	
		14%	86%	100%			

2. 評価の方法及び内容・結果について

(1) 自己評価書について

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

評2-(1)-	① 対象校の自己評価書は理解しやすかった	5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
		0	1	2	0	1	4	2.75	0	
		0%	25%	50%	0%	25%	100%			
評2-(1)-	② 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた	A	0	6	1	0	0	7	3.86	0
		B	0	6	1	0	0	7	3.86	0
		0%	86%	14%	0%	0%	100%			
		0	1	2	1	0	4	3	0	
		0%	25%	50%	25%	0%	100%			
		0	6	1	0	0	7	3.86	0	
		0%	86%	14%	0%	0%	100%			

(2) 書面調査について

【5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

評2-(2)-			5	4	3	2	1	計	平均	未回答
			① 機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった	A	1	3	0	0	0	4
			25%	75%	0%	0%	0%	100%		
		B	0	5	0	0	0	5	4	2
			0%	100%	0%	0%	0%	100%		
評2-(2)-	② 書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報(客観的データ等)があればよかった	A	0	1	2	0	1	4	2.75	0
			0%	25%	50%	0%	25%	100%		
		B	0	0	4	2	1	7	2.43	0
			0%	0%	57%	29%	14%	100%		

(3) 訪問調査について

【5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

評2-(3)-			5	4	3	2	1	計	平均	未回答
			① 「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった	A	0	0	4	0	0	4
			0%	0%	100%	0%	0%	100%		
		B	0	5	2	0	0	7	3.71	0
			0%	71%	29%	0%	0%	100%		

(4) 評価結果について

【5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

評2-(4)-			5	4	3	2	1	計	平均	未回答
			① 自ら担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された	A	0	4	0	0	0	4
			0%	100%	0%	0%	0%	100%		
		B	2	5	0	0	0	7	4.29	0
			29%	71%	0%	0%	0%	100%		

3. 研修について

【5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

評3-			5	4	3	2	1	計	平均	未回答
			① 総じて、研修は適切であった		1	4	1	1	0	7
			14%	57%	14%	14%	0%	100%		

4. 評価の作業量、スケジュール等について

【5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

評4-			5	4	3	2	1	計	平均	未回答
			① 総じて、評価の作業量、スケジュール等は適切であった		0	5	1	1	0	7
			0%	71%	14%	14%	0%	100%		

5. 評価全般について

【5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

評5-			5	4	3	2	1	計	平均	未回答
			① 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の改善が促進されると思う	A	0	2	1	1	0	4
			0%	50%	25%	25%	0%	100%		
		B	1	5	1	0	0	7	4	0
			14%	71%	14%	0%	0%	100%		
評5-	② 今回の評価によって社会の理解と支持が支援・促進されると思う	A	0	1	2	1	0	4	3	0
			0%	25%	50%	25%	0%	100%		
		B	1	4	2	0	0	7	3.86	0
			14%	57%	29%	0%	0%	100%		
評5-	③ 自己の専門知識・能力を評価作業・評価結果に活かすことができた	A	0	3	0	1	0	4	3.5	0
			0%	75%	0%	25%	0%	100%		
		B	1	4	2	0	0	7	3.86	0
			14%	57%	29%	0%	0%	100%		
評5-	④ 今回の評価作業で得た知識を自身の所属組織の運営等に活かすことができた	A	0	3	0	0	1	4	3.25	0
			0%	75%	0%	0%	25%	100%		
		B	0	6	0	1	0	7	3.71	0
			0%	86%	0%	14%	0%	100%		
評5-	⑤ 総じて機構の選択評価事項に係る評価を経験できてよかった		1	6	0	0	0	7	4.14	0
			14%	86%	0%	0%	0%	100%		

選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）

【対象校】（大学）

② 選択評価事項に係る評価を受けた理由について

- ・ 本学の設置目的及び経緯から、O P I（オープンインスティテュート）を中心に、都・区市町村の自治体や産業界等と連携し、地域貢献活動における実績を有しているため、選択評価事項Bを選択し受審しました。
- ・ 本学では基本理念に「地域の振興と地球的規模の課題の解決に寄与します」と掲げ、基本目標に「地域と共に発展し、地域と共に歩む『地域との共生』を目指します」と設定しており、本学の地域貢献活動のさらなる向上につなげることを目的として選択評価事項に係る評価を受審しました。

（選択評価事項A）

平成16年4月の大学院設置（博士前期課程および博士後期課程）から現在まで、文部科学省の競争的資金（学部G P、大学院G P、学び直し）を獲得して、「島嶼保健看護学」の確立にむけた教育研究活動に取り組んできた。この間、自己評価は行ってきたものの、他者評価は不十分と言わざるを得ない。そこで、本学の研究活動における課題と今後の方向性を明確にする上でも認証評価を受ける必要があった。

（選択評価事項B）

本学は平成11年4月に開学し、学部、博士前期課程、博士後期課程、別科助産専攻の教育の充実、及び教員の研究の推進を優先してきた。地域貢献については、開学以来委員会を設置し公開講座とナーシングリーダーシップを細々と実践してきた。しかし、大学に地の拠点だけでなく地域の拠点が求められる昨今、これまでの地域貢献活動を評価し新たな方向性を見出すために他者評価を受ける必要があると思った。

- ・ 「研究活動の状況」：教員の教育活動に関する評価が継続的に行われていないため、研究活動の状況を把握するために受審。
- ・ 「地域貢献活動の状況」：各セッションにおいて自主的な取り組みとして積極的に行われてきたが、大学としての評価を行っていなかったために受審。

1. 選択評価事項及び観点について

⑥ 自己評価しにくかった評価事項又は観点について

- ・ 本学は法人化していないため、大学組織の中期目標・中期計画に対する評価資料が乏しく、教員個々の研究活動を中心に自己評価せざるを得なかった。

○ 選択評価事項及び観点についての意見、感想等

- ・ 地域貢献は、地域の特性や大学の特徴によっても異なる。特に本学は単科大学で大学のシーズが「看護」に偏っている。その偏りを生かし総合大学との差別化が図れる地域貢献ができればと考えてい

る。大学の形態や規模、地域特性などを加味した地域のニーズと大学のシーズとのマッチングに関する事項や観点も必要かと思えます。

- ・ 「研究活動の状況」では、研究活動票とともに活動を証明する添付資料（例、図録、DM等）が必要だと感じた。

2. 評価の方法及び内容について

(1) 自己評価について

① 自己評価書に添付する資料で迷った点について

- ・ 根拠資料としてウェブサイトに掲載されている冊子類（電子ブック等）を提示する際、そのURLを示すのみでよいのか、それとも該当ページを別添資料として添付すべきか迷いました。
- ・ 1つの事項に対し各学部で根拠資料が異なる場合、根拠資料の概要をまとめた一覧表を自己評価書中に記載すべきか、それとも各学部の根拠資料をすべて別添資料として添付すべきか、迷いました。

○ 自己評価についての意見、感想等

- ・ 本学の地域貢献に関する委員会の歴史があり、どの部分から書き出すのかについての迷いがあり、定めるのに時間を要した。

(2) 訪問調査について

○ 訪問調査等についての意見、感想等

- ・ 大学が地域貢献と自己評価しても、受け手の地域からの評価は受けていない。地域貢献の対象からの評価を公開講座などの受講者の評価ではなく、地域にとっての意味のような評価をインタビューなどでできると良いのかもしれないと思う。
- ・ 訪問調査時に資料確認のため「展覧会図録」等の提出を求められ急遽対応したが、機構の評価担当者は集めた資料を閲覧したか疑問である。
事前に訪問調査方法が定まっていなかったように思えた。

4. 説明会・研修会等について

○ 説明会・研修会等についての意見、感想等

- ・ 選択評価は初めてで、自己評価書の添付資料の作成に時間を要した。研究活動実績票 別紙様式
①一甲は、大学規模別（総合大学か単科大学か）に記載例があると作成しやすいと思う。

6. 評価を受けたことによる効果・影響について

(1) 自己評価を行ったことによる効果・影響について

○ 自己評価を行ったことによる効果・影響に関連しての意見、感想等

- ・ 大学の研究活動の方向性がより明確になったことが最大の効果である。
- ・ 「研究活動の状況」：教員の教育活動に関する評価が継続的に行われていくための端緒になることを期待している。
- ・ 「地域貢献活動の状況」：各セクションにおいて自主的な取り組みとして積極的に行われてきた地域貢献活動に対する大学執行部の評価につながることを期待。

(2) 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について

○ 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響に関連しての意見、感想等

- ・ 今の時点では評価書を刊行していないので、効果・影響についての所見は述べることが出来ない。

7. 評価結果の活用について

① 今回の評価を契機として、何らかの変更・改善を予定しているもの（又は実施済みのもの）について

○ 主要な変更・改善事項及び変更・改善の際の機構の評価（機構の評価報告書の内容だけでなく、対象校による自己評価書の作成や、評価の過程で得られた知見を含む）の参考度について

※参考度：【5：非常に参考になった～3：参考になった～1：あまり参考にならなかった】

(評価事項A)

- ・【課題】 科研費申請者が一部の教員に限られている。
【変更・改善】 科研費の申請件数を増加する。【4】
- ・【課題】 教員への研究費配分が職位別一律である。
【変更・改善】 研究費の新たな配分方法を考える機会・場をつくる。【4】

選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）

【評価担当者】（大学）

② 設けることが望ましい選択評価事項について

- ・ 国際的評価は加えられる由であるが、やはり必要性が高いと思う。

1. 選択評価事項及び観点について

④ 対象校の教育活動等の改善を促進するために適切でなかった点について

- ・ 芸術大学の研究評価の基準がわからず、評価は至難である。

⑤ 対象校の教育活動等の社会から理解と支持を得るために適切でなかった点について

- ・ 社会貢献については、自己評価以外に、社会からの貢献の程度や要望も具体的に記載しておくことが望まれます。

⑥ 評価しにくい評価事項又は観点について

- ・ 選択的評価A-1-②、A-2-②
- ・ 選択評価（地域貢献）を担当したが、担当大学では地域貢献は立派であったが、同じ部会の他大学では、内容が研究と地域貢献の混在している大学の例が見られた。大学の気持ちは理解できるが、当該分野の研究そのものが地域貢献と不可分な場合はその実情を示す必要があると思われる。前回の部会でもコメントしました。

⑦ 追加すべき評価事項及び観点について

- ・ 地域貢献については、大学が何をしたか、だけでなく、地域住民、企業が主体的にどうかかわったかとの設問が不可欠である。でないとも自己満足な活動が多く、地域に支えられた大学とみることが出来ない。

○ 選択評価事項及び観点についての意見、感想等

- ・ 選択的評価で研究のレベルの判断が難しかった。特に看護学研究領域では自然科学的な量的研究というよりも質的研究が多くみられる傾向になっているので、今後その基準をどこにおいたらよいかである。今回の担当大学では実践的な調査研究や解説的な内容であったので、大きな議論にはならなかった。今後の課題である。
- ・ 研究活動について、対象校は一つの研究題目に限って自己点検・評価をしているので、選択評価事項についてのオリエンテーションをより深めた方がよかったのではなかったか。
- ・ 今回は担当しなかったが、「研究評価」に関して、機構の第1サイクルに際して、評価の重要な参考になる学術情報センターからの分野別業績、科研費取得状況等の資料が客観的評価に大変参考になる。

なった。国内におけるその大学の分野ごとの位置づけもあり便利であり、第1サイクルでは、少し古くなったが何回か、参考のために利用した。

今後、このようなデータ集があると便利であるが、直近のもので利用できる資料があればご教示いただきたい。

- ・ 研究活動領域では、領域によって、判断基準が異なる。たとえば理系と文系では異なるように思う。また、看護系領域は医学（理系）からの分離もあり、位置づけが人文系や社会科学系とも考えられており、研究の方法論や成果をどのように判断してよいか議論があると考え。

- ・ 専門分野での研究評価の観点をもっとしっかり検討する必要がある。

地域貢献については、住民への具体的「成果」の指標化が求められる。特に芸術については、長期的な視点での芸術・文化の向上の評価が必要である。

- ・ この選択評価事項の記述について、大学からの自己評価書の記述が、機構が求めているPDCAに沿って書かれていないという指摘があった。大学関係者への説明は行われているとのことだが、浸透していないらしい。

2. 評価の方法及び内容・結果について

(1) 自己評価書について

① 対象校の自己評価書の理解しにくかった点について

- ・ 記述方法がPDCAに沿っていないということだった。

○ 自己評価書の様式についての意見、感想等

- ・ 研究領域では、判断の根拠になる論文や成果物の資料等がもっと必要と思った。
専門委員の評価を参考にしたが、十分な評価ともいえないように思った。
- ・ PDCAサイクルを常に意識して、芸術活動の評価資料を収集すること。
長期的視野からの芸術人材の育成効果指標を確立すること、卒業生の芸術活動のチェック、芸術関係教員の活動状況など。

(2) 書面調査について

○ 書面調査を行うために必要であったと思われる参考となる情報（客観的データ等）について

- ・ 研究論文やその成果物を評価する方法があればよい。
評価委員の努力で研究論文等を入手した。

(3) 訪問調査について

○ 訪問調査についての意見、感想等

- ・ 一般の調査に加えて、特に記すことはありません。

(4) 評価結果について

○ 評価結果についての意見、感想等

- ・ 小さな指摘でしたが、きちんと反映していただきました。

3. 研修について

○ 研修についての意見、感想等

- ・ 研修は丁寧で、よく理解できました。
- ・ 評価を終えて、改めて研修内容をみると、もう少し詳しい説明がほしかったように思う。
- ・ 研究評価についての手法の説明が弱い。
- ・ 丁寧に行われていると思います。

4. 評価の作業量、スケジュール等について

○ 評価に費やした作業量及び機構の設定した作業期間についての意見、感想等

- ・ 研究領域の評価は大学にとっても初めてであり、大学側も評価に関して期待はあったと思い、評価者も緊張した。専門家による評価の根拠にもう少し丁寧な説明がほしかった。
- ・ Aについては作業しようがない。
- ・ 他の評価事項と同時並行で行いましたので、特に負担感があったわけではありませんが、やはり量的には多かったかと思います。

5. 評価全般について

○ 評価全般（評価に携わっていただいて感じたことも含め）についての意見、感想等

- ・ 地域貢献活動の状況という選択的評価は大学委改革実行プランのCOC構想もあり、今後、重要性が増してくると思われる。今回は、地域貢献に関係する組織が設置され、その組織が中心にこの評価書を作成しており、大学全体の地域貢献活動の把握が出来ていない部分があったので、今後、そういった点について注意を促しておくことが必要であろう。
- ・ 評価結果をどの様に今後に生かすかは、対象校の姿勢によるでしょう。
- ・ 選択的評価にかかわってよかったと思う。看護系の大学（学部）での研究の狙いや方法論、成果とは何を要求されるのか、国際的な水準は何か等いろいろ考えさせられ、勉強になった。
一般論ではなく実際の事例を通してなので、具体的に検討する資料にもなった。
地域貢献の在り方を考えるにも良い参考となった。
- ・ 研究評価については、大学の研究分野を考慮し、一律な観点を適用することは困難である。
- ・ 評価の最前線を具体的、実質的に経験できたことは、私個人にとっては得がたい機会をいただけたと感謝しています。

平成25年度実施選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート

選択評価事項に係る評価を受けた対象校のみお答えください。

- ① 今回、受けた選択評価事項について、該当するものに○をお付けください

・ 選択評価事項A「研究活動の状況」	
・ 選択評価事項B「地域貢献活動の状況」	

- ② 選択評価事項に係る評価を受けた理由をご記入ください

- ③ 現在の選択評価事項A、Bの他に、設けることが望ましい選択評価事項があった -----

あった	なかった	
2	1	

→※③について、2とご回答いただいた場合、設けることが望ましい選択評価事項についてご記入ください。

1. 選択評価事項及び観点について

当機構が設定した選択評価事項及び観点についてどのように思われましたか。評価の目的である教育研究活動等の「改善の促進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、またそれ以外の特徴について、以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 選択評価事項を設けたことは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

② 「研究活動の状況」や「地域貢献活動の状況」を選択評価事項のテーマとして設定したことは適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

③ 貴校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

④ 評価事項及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等の改善を促進するために適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

→※④について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

⑤ 評価事項及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

→※⑤について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

	ある	ない	
A	2	1	
B	2	1	

⑥ 自己評価しにくい評価事項又は観点があった -----

→※⑥について、2 とご回答いただいた場合、どの評価事項又は観点が自己評価しにくかったかをご記入ください。

	ある	ない	
A	2	1	
B	2	1	

⑦ 現行のものに加え、追加すべき評価事項及び観点が -----

→※⑦について、2 とご回答いただいた場合、追加すべき評価事項及び観点についてご記入ください。

・ 選択評価事項及び観点についてご意見、ご感想等をご記入ください。

2. 評価の方法及び内容について

評価の方法及び内容について、(1) 自己評価、(2) 訪問調査等、(3) 意見の申立ての3項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

(1) 自己評価について

	迷った	迷っていない	
A	2	1	
B	2	1	

- ① 自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った

→※①について、2とご回答いただいた場合、どのような点で迷ったのかをご記入ください。

--

- ・自己評価についてご意見、ご感想等をご記入ください。

--

(2) 訪問調査等について

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 訪問調査の前に提示された、「書面調査による分析状況」の内容は適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

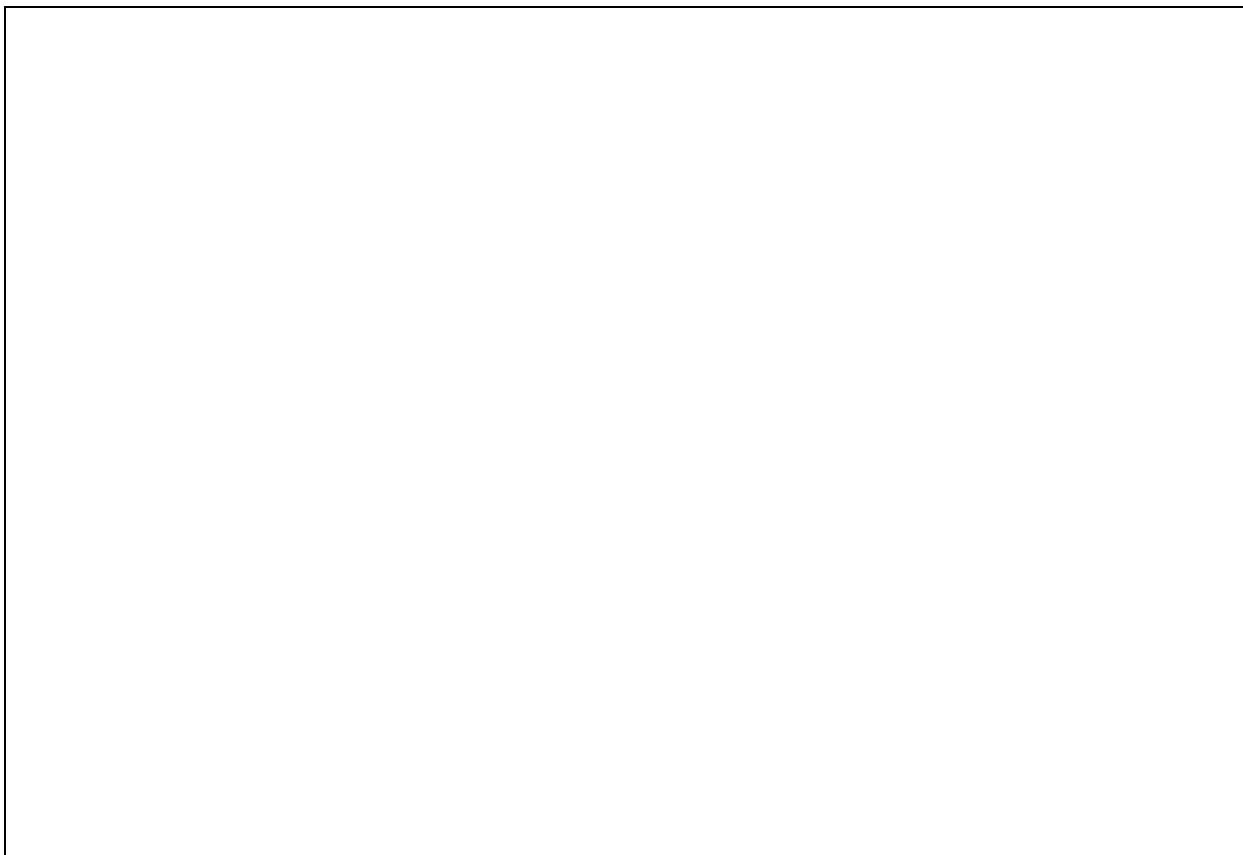
→※①について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

② 訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

→※②について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

・ 訪問調査等についてご意見、ご感想等をご記入ください。



(3)意見の申立てについて

強く どちらとも 全くそう
そう思う ← 言えない → 思わない
(5) (3) (1)

① 総じて、意見の申立ての実施方法等は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・意見の申立てについてご意見、ご感想等をご記入ください。

3. 評価の作業量、スケジュール等について

評価の作業量、スケジュール等について以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう
そう思う ← 言えない → 思わない
(5) (3) (1)

① 総じて、評価の作業量、スケジュール等は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・ 選択評価事項に係る評価に費やした作業量、スケジュール等についてご意見、ご感想等をご記入ください。

--

4. 説明会・研修会等について

選択評価事項に係る評価に関する説明会、自己評価担当者等に対する研修会、その他機構が実施する各種説明等について以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう
そう思う ← 言えない → 思わない
(5) (3) (1)

① 総じて、説明会・研修会等は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・説明会・研修会等についてご意見、ご感想等をご記入ください。

5. 評価結果（評価報告書）について

評価結果（評価報告書）について、以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等の改善に役立つものであった	A	5	4	3	2	1	
	B	5	4	3	2	1	
② 評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等について社会の理解と支持を得られることを支援・促進するものであった -----	A	5	4	3	2	1	
	B	5	4	3	2	1	
③ 評価報告書の内容は、貴校の目的に照らし適切なものであった -----	A	5	4	3	2	1	
	B	5	4	3	2	1	
④ 評価報告書の内容は、貴校の実態に即したものであった -----	A	5	4	3	2	1	
	B	5	4	3	2	1	
⑤ 評価報告書の内容は、貴校の規模等（資源・制度等）を考慮したものであった -----	A	5	4	3	2	1	
	B	5	4	3	2	1	
⑥ 評価報告書の内容から、教育研究活動等に関して新たな視点が得られた ----	A	5	4	3	2	1	
	B	5	4	3	2	1	
⑦ 評価報告書の構成及び内容はわかりやすいものであった -----	A	5	4	3	2	1	
	B	5	4	3	2	1	

→※⑦について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点がわかりにくかったかをご記入ください。

⑧ 評価結果において、達成状況等を4段階の判断で示すという方法は適切であった -----	5	4	3	2	1	
	5	4	3	2	1	
⑨ 総じて、機構による評価報告書の内容や構成は適切であった -----	5	4	3	2	1	
	5	4	3	2	1	

・評価結果（評価報告書）についてご意見、ご感想等をご記入ください。

6. 評価を受けたことによる効果・影響について

評価を受けたことによる効果・影響について、自己評価実施時点での効果・影響と機構の評価結果を受けての効果・影響とに分けて質問しますので、それぞれお答えください。(具体の活用例、改善例については、別途「7. 評価結果の活用について」で質問します。)

(1) 自己評価を行ったことによる効果・影響について

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 貴校の教育研究活動等の改善を促進した

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

・選択評価事項に係る評価について自己評価を行ったことによる効果・影響に関連して、ご意見、ご感想等がありましたらご記入ください。

(2) 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 貴校の教育研究活動等の改善を促進する

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

② 貴校の学生や社会からの理解と支持が得られる

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

・機構の選択評価事項に係る評価結果による効果・影響に関連してご意見、ご感想がありましたら、ご記入ください。

7. 評価結果の活用について

- ① 今回の評価（機構の評価結果だけでなく、貴校における自己評価及びその後の評価の過程で得られた知見を含む。）を契機として、課題として認識し、何らかの変更・改善を予定している事項（または実施済みの事項）がありましたら、その主要な事項について、簡潔にご記述ください。

また、その変更・改善の際に、今回の評価はどの程度参考になったかを5段階でお答えください。

特に、評価結果において「改善を要する点」として指摘を受けた事項について、変更・改善を予定しているもの（または実施済みのもの）がありましたら、必ずご記述ください。

注：本質問は、機構の評価がどの程度対象校の改善に活用されているかを把握することにより、評価方法の改善を図ろうとするものです。貴校の変更・改善の取組状況自体を評価することを目的とするものではありません。

非常に 参考に あまり参考に
参考になった ← なった → ならなかった
(5) (3) (1)

課題	(記入例) 【評価事項 A】研究活動を実施するために必要な体制の整備を加速させる必要がある。	5	4	3	2	1	3
変更・改善	各キャンパスの研究活動の現状を調査・検証し、体制の基盤づくりをしている。						
課題		5	4	3	2	1	
変更・改善							
課題		5	4	3	2	1	
変更・改善							
課題		5	4	3	2	1	
変更・改善							

※必要に応じて、枠の数を増やしたり、縦幅を大きくしてください。

- ② 貴校では、今後、次のような事柄に評価結果を用いる予定がありますか。以下の該当する番号に○を付けるか、下の回答欄に番号を記入してください。（複数回答可）

1	貴校の広報誌に評価結果を掲載する。	2	貴校のウェブサイトで評価結果を公表する。
3	資金獲得のための申請書に記載する。	4	学生募集の際に用いる。
5	共同研究等の相手先企業を募集するパンフレット等に用いる。		
6	その他（具体的に） ()		

回答欄

8. その他

- ・選択評価事項に係る評価についてのご意見、ご感想があればご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

平成25年度実施選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート

選択評価事項に係る評価を担当された方のみお答えください。

- ① 今回、評価を担当された選択評価事項について、該当するものに○をお付けください

・ 選択評価事項 A 「研究活動の状況」	
・ 選択評価事項 B 「地域貢献活動の状況」	

- ② 現在の選択評価事項 A、B の他に、設けることが望ましい選択評価事項があった -----

	あった	なかった	
	2	1	

→※②について、2 とご回答いただいた場合、設けることが望ましい選択評価事項についてご記入ください。

--

1. 選択評価事項及び観点について

当機構が設定した選択評価事項及び観点についてどのように思われましたか。評価の目的である教育研究活動等の「改善の促進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、またそれ以外の特徴について、以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 選択評価事項を設けたことは適切であった -----	5	4	3	2	1		
② 「研究活動の状況」や「地域貢献活動の状況」を選択評価事項のテーマとして設定したことは適切であった -----	A	5	4	3	2	1	
	B	5	4	3	2	1	
③ 対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった ----	A	5	4	3	2	1	
	B	5	4	3	2	1	
④ 評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するために適切であった -----	A	5	4	3	2	1	
	B	5	4	3	2	1	

→※④について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

⑤ 評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった -----	A	5	4	3	2	1	
	B	5	4	3	2	1	

→※⑤について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

	ある	ない	
A	2	1	
B	2	1	

⑥ 評価しにくい評価事項又は観点があった -----

→※⑥について、2とご回答いただいた場合、どの評価事項又は観点が評価しにくかったかをご記入ください。

	ある	ない	
A	2	1	
B	2	1	

⑦ 現行のものに加え、追加すべき評価事項及び観点が -----

→※⑦について、2とご回答いただいた場合、追加すべき評価事項及び観点についてご記入ください。

・選択評価事項及び観点についてご意見、ご感想等をご記入ください。

2. 評価の方法及び内容・結果について

評価の方法及び内容・結果について（1）自己評価書、（2）書面調査、（3）訪問調査、（4）評価結果の4項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

（1）自己評価書について

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 対象校の自己評価書は理解しやすかった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

→※①について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が理解しにくかったかをご記入ください。

② 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

→※②について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような根拠資料が引用・添付されていなかったかをご記入ください。

・自己評価書の様式についてご意見、ご感想等をご記入ください（特に対象校に事前に伝えたい点、様式上の事項として不足のあった点等があればお聞かせください）。

(2) 書面調査について

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

→※①について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が記入しにくかったかをご記入ください。

② 書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報（客観的データ等）があればよかった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

→※②について、5又は4とご回答いただいた場合、どのような情報（客観的データ等）があればよかったかをご記入ください。

・ 書面調査についてご意見、ご感想等をご記入ください。

(3) 訪問調査について

強く どちらとも 全くそう
そう思う ← 言えない → 思わない
(5) (3) (1)

① 「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

・ 訪問調査についてご意見、ご感想等をご記入ください。

(4) 評価結果について

強く どちらとも 全くそう
そう思う ← 言えない → 思わない
(5) (3) (1)

① 自ら担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された ---

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

・評価結果についてご意見、ご感想等をご記入ください。

3. 研修について

機構が実施する研修について以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう
そう思う ← 言えない → 思わない
(5) (3) (1)

① 総じて、研修は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・ 研修についてご意見、ご感想等をご記入ください。

4. 評価の作業量、スケジュール等について

評価の作業量、スケジュール等について以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう
そう思う ← 言えない → 思わない
(5) (3) (1)

① 総じて、評価の作業量、スケジュール等は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・ 選択評価事項に係る評価に費やした作業量、スケジュール等についてご意見、ご感想等をご記入ください。

--

5. 評価全般について

選択評価事項に係る評価を行ったことによる効果・影響等、評価全般について以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の改善が促進されると思う ---

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

② 今回の評価によって社会の理解と支持が支援・促進されると思う -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

③ 自己の専門知識・能力を評価作業・評価結果に活かすことができた -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

④ 今回の評価作業で得た知識を自身の所属組織の運営等に活かすことができた -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

⑤ 総じて機構の選択評価事項に係る評価を経験できてよかった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・選択評価事項に係る評価全般（選択評価事項に係る評価に携わっていただいていたことも含め）
についてご意見、ご感想等をご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

